

## IV. 短期サポートグループワーキンググループ 報告

短期サポートグループワーキンググループ長 平井 啓  
大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授

### A. 目的

がん患者を対象とした「サポートグループ」は、がん患者の情緒面や対処能力向上のための心理社会的支援の方法として世界の多くの医療施設において提供されている。日本でもがん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院等）の要件において、がん相談支援センターに必要な機能として、がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けることが求められている。ゆえに、実際、医療者が運営する構造化されたサポートグループ、あるいはピア・サポーターが中心となり運営されるピア・サポートプログラムなど、さまざまな取り組みが行われている。しかしすでに開催されている患者サロンやピア・サポーターによるサポートグループの運営上の課題解決や質向上を行うための体系的で簡便な資料がなく、これらの心理社会的支援の方法が十分に行われているとは言い難い。

そこで短期サポートグループワーキンググループは、これまで、さまざまな「サポートグループ」の運営に携わったメンバーにより、ピア・サポートを含む、さまざまな形や目的の「サポートグループ」に関して構造と機能の整理を行い、おもにがん診療を行う病院で勤務する、がん患者を対象としたサポートグループの企画・運営に携わる医療従事者を対象とした、「がんサポートプログラムの手引き」を作成し、さらにがんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」を開発し、2020年度から実施している。がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備するためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2回の研修会を開催し、さらに継続的な研修の機会を提供するためフォローアップ研修会を開催した。

### B. 経過

本年度は、2023年11月3日（仙台とオンライン）と2024年2月10日（福岡とオンライン）の2回開催し、それぞれ90名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。本研修プログラムのねらいは、①サポートグループ・ピア・サポートについて理解しており（必要性や意義、方法について）②サポートグループのファシリテーションに関する基本的な技術を習得し、企画・運営することができる人材の養成である。

方法としては、参加者が事前課題として自施設のがんサポートグループについて評価し、研修会を受講する形をとった。その後、参加者の主観的変化を見るために事後評価アンケートを行った。

事前評価アンケートは、自身のプロフィール、自施設のがんサポートグループの構造や機能、自己の行動などの主観的評価をオンライン上の質問サイトにて尋ねた。

講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。本年度はピア・サポートの実際の場面がわかるように新たに動画を作成し、それを講義の中で閲覧することとした。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーションの6場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

事後評価アンケートは、事前評価アンケート同様にオンライン上の質問サイトにて、サポートグループの理解度やファシリテーターとしての効力感などを「非常にそう思う」「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5件法で、その他研修会に関する意見等を尋ねた。

フォローアップ研修会については、11月23日にオンラインで開催した。研修プログラムのねらいは、これまでの研修会の参加者の要望などを踏まえ、①ピア・サポーターを活用した好事例について学ぶ、②難しい場面でのファシリテーションの方法について事例検討により学ぶ、③各施設での具体的な取り組みについての状況共有とネットワークングとなった。プログラムは4時間で構成され、ピア・サポート好事例紹介、事例検討、情報交換の3つのパートから構成された。事例検討は、サポートグループにおいて生じうる難しい場面において、ファシリテーターとしてどのような対応するのかについてグループで話し合うものである。ピア・サポート場面の動画視聴も追加した。

### C. 結果

事前登録者は、11月60名、2月45名であった。このうち事前評価アンケートのデータについてクラスタ分析(ward法)を行い、目標レベル分けを行っ

たところ、11月の研修会でレベル設定を行ったものは58名であった。このうち、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い」26名、レベルⅡ：「多様なニーズへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」30名、レベルⅢ：「エキスパート」2名であった。2月の研修会では、45名をレベル分けし、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い」31名（アンケート未提出者・欠損ありの16名を含む）、レベルⅡ：「多様なニーズへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」12名、レベルⅢ：「エキスパート」2名であった。例年より、がん相談、サポートグループ経験者が少ないが、研修後はすべての項目で平均値が有意に上昇した。特に「ファシリテーターの役割を理解」「ピア・サポーターとの協働の理解」「サポートグループ運営の自己効力感」は効果量が大きく、研修の目的が十分に達成された。さらにサポートグループの必要性とその効果、ピア・サポーターの重要性に関する知識、ピア・サポーターとの協働、サポートグループの課題改善の項目で効果量が大きく、研修の目的が十分に達成された。

またファシリテーションに関する評価の項目から、基本的なファシリテーションのスキルは実践を通して学習できたが、比較的高いスキルを求められる対応や、ピア・サポーターとの協働によるファシリテーションについて課題を感じているのは例年同様で、フォローアップ研修による継続的な学習を必要とする内容であった。研修全体についての評価では、研修内容はわかりやすく、期待を満たすものであり、継続的な研修参加への強い要望もみられた。続くコロナ禍でオンライン研修に慣れた参加者が増加し、積極的に参加できているようであった。オンラインでもロールプレイ実践を通してスキルの習得ができ、また各施設の企画・運営の課題について話し合うことができたことを評価していた。自由記述の回答を分類したところ、良かった点としては、ロールプレイの経験、他施設との情報共有・取り組みを知る、実践の振り返り・エンパワメント、講義内容・ファシリテーターの存在、研修の構成・雰囲気、開催形式であった。一方で、改善点としては、研修時間がタイト、参加者同士の交流の機会、対面・オンラインでの参加による不具合、ロールプレイの長さなどであった。

フォローアップ研修会は、32名の事前登録があった。「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」終了後の各施設でのサポートグループの開催状況については、対面開催が78%、オンラインなど多面以外の方法での開催が6%、開催なしが16%であった。サポートグループへのピア・サポーターの参加は、参加ありの施設が60%であった。

フォローアップ研修後の自己評価では、サポートグループのレベルⅡからⅢのスキルについて十分に獲得されていた。研修全体についても有用性ならびに満足ともに高い評価となっていた。

#### D. 考察

「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」は2020年度から今年度までに合計7回開催し、482名が修了している。昨年度に比べて本年度はレベルⅠの参加者が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。全国の拠点病院等において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、さらに本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者を対象としていく必要がある。さらに、これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催になっている。そのためサポートグループのファシリテーションの一部についてロールプレイで体験してもらう研修となっているが、対面開催が可能となれば、さらに幅広いスキルの獲得のための研修が可能となると考えている。

さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定も今後の課題である。

【「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」研修修了者の人数】

		日程	形式	修了者
令和2年度	第1回	2021年2月11日	オンライン	87名
令和3年度	第2回	〃 11月3日	ハイブリッド(東京)	82名
	第3回	2022年2月11日	オンライン	75名
令和4年度	第4回	〃 11月3日	ハイブリッド(東京)	77名
	第5回	2023年2月11日	ハイブリッド(大阪)	53名
令和5年度	第6回	〃 11月3日	ハイブリッド(仙台)	60名
	第7回	2024年2月10日	ハイブリッド(福岡)	48名(予定)
合計				482名

【「がんサポートグループ企画運営者のためのフォローアップ研修会」研修修了者の人数】

		日程	形式	修了者
令和4年度	第1回	2022年11月23日	オンライン	32名
令和5年度	第2回	2023年11月23日	ハイブリッド(東京)	29名
合計				61名

図1. 研修会受講者の背景 (2023年11月3日)

## 事前アンケート回答状況

2023年10月20日9時〆切時点  
60/64名提出 94%回収

---

**受講者の背景 (n=60)**

**1. 所属：**

所属	名
地域連携・総合相談支援センター	21
がん相談支援センター	17
看護部	10
腫瘍センター	3
診療科	3
緩和ケア部門	2
外来(中央放射線部)	1
治療就労両立支援センター	1
地域統括がん相談支援センター	1
訪問看護ステーション	1

**2. 職種：**

職種	名	
看護師・保健師	34	
がん看護専門看護師		10
緩和ケア認定看護師		4
がん化学療法認定看護師		2
がん放射線療法認定看護師		2
がん性疼痛看護認定看護師		1
皮膚・排泄ケア認定看護師		1
小児看護専門看護師		1
認知症看護認定看護師		1
MSW		22
心理職	2	
医師	1	
認定遺伝カウンセラー	1	

3

図 2-1. サポートグループの開催状況 (2023 年 11 月 3 日)

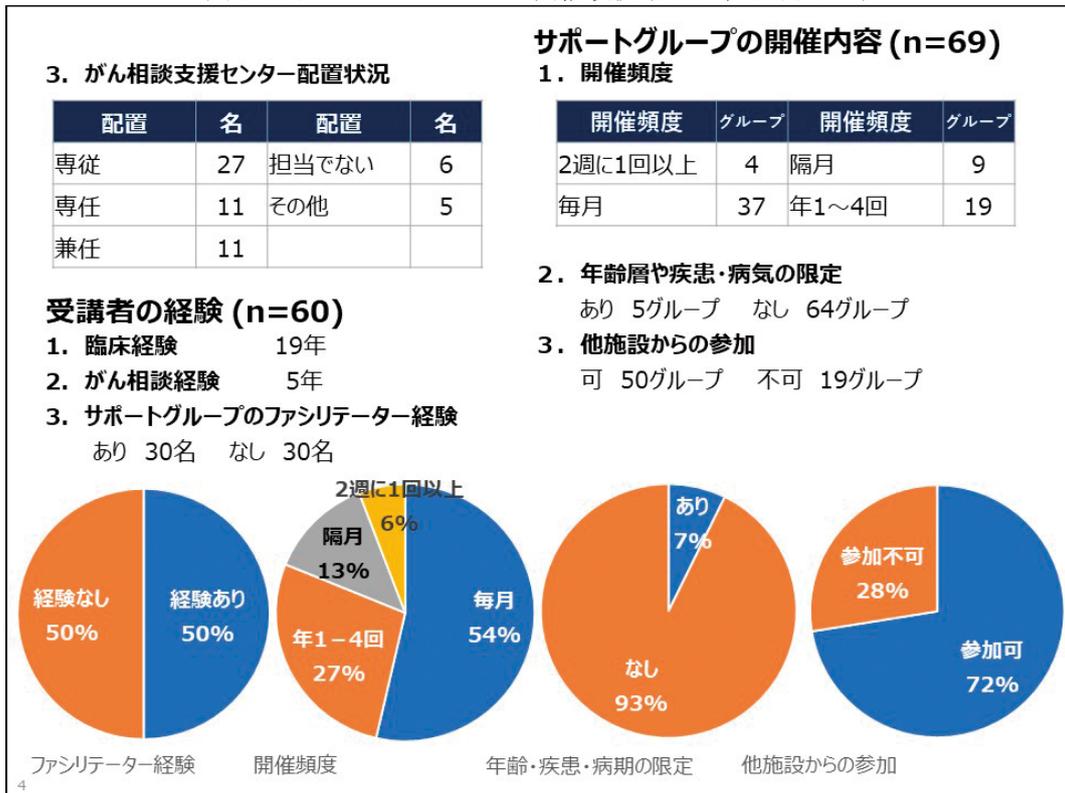


図 2-2. サポートグループの開催状況 (2023 年 11 月 3 日)

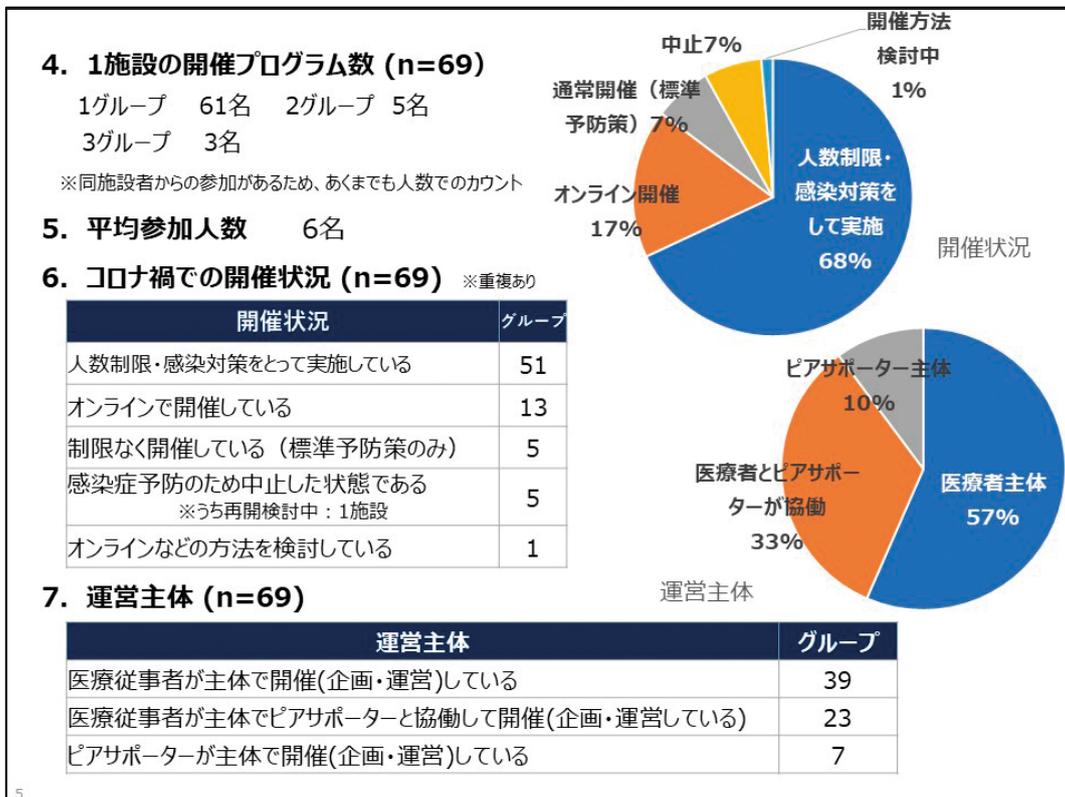


図 3. 自施設の役割に関する記載(抜粋) (2023年11月3日)

<b>自施設の役割に関する記載 (56名記載あり以下抜粋)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 消化器専門病院として幅広い消化器疾患について専門的医療を的確に提供できること、またがん診療については指定病院でもあり診断から治療、緩和ケアまで提供できる、ワンストップでの体制（診療だけでなく相談、入院なども）が求められていると考えます。一方でかかりつけ医機能も果たしつつ、予約診療でないこともあり、困ったときの駆け込み寺的期待及び利用実態もあると考えます</li> <li>● 埼玉県南部地域の緩和ケア病棟を有する、がん診療連携拠点病院。グループ病院として、医療介護の連携、訪問診療部門との連携をはかり、地域のがん患者が最後まで安心して療養できる環境を提供している。</li> <li>● AYA世代の患者層が他機関と比較して多いため、世代に特化したピアサポートの基幹的役割もあると思う</li> <li>● 大阪市の中核病院として地域医療機関との適切な役割分担のもとに連携を強化し、市民の“健康と生命を守る最後の拠り所”として必要な医療を提供する。</li> <li>● 神戸医療圏の人口は約152万人と全国の他の医療圏と比較しても非常に多い。今後、近隣のがん診療連携拠点病院と連携しながら東神戸地域のがん診療への貢献が求められている</li> <li>● 主に高知県の中央保健医療圏における救急医療や災害時の拠点となる急性期病院。高度医療の提供を担い、地域の病院との連携を密に図ることで、地域住民の健康的な生活に寄与すること</li> </ul>

6

図 4. 自施設のがん診療の特徴の記載(抜粋) (2023年11月3日)

<b>自施設のがん診療の特徴の記載 (56名記載以下抜粋)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 消化器専門病院にて消化器がんについては、手術実績も多く、薬物療法件数も少なくない。検査機器も比較的充実しており、診断から治療にかけて過不足なく医療が提供できる体制にあると考える。また内科と外科の連携も迅速に行われていることも当院の特徴である。さらに緩和ケアとの連携も適宜行われているが、一方で当院他科と緩和ケアの並診数は少なく、入院中も転科前後からのかかわりとなっており、早期からの緩和ケアがうたわれて久しいがその実現は当院では不足していることも（他院の実態は不明だが）ある意味で当院の特徴であるように感じている</li> <li>● 胃がん、大腸がん、肺がん、前立腺がんなどの登録件数が多い。一方で、大学病院という特性上、県内（近隣県外）の小児がんや希少がんの治療を担っている。</li> <li>● 在宅医療科、緩和ケア病床を持っているため診断からエンドオブライフ期までシームレスや医療を提供できる</li> <li>● 消化器病センターを設置し、腫瘍内科と緩和ケア内科を標榜している。専門外来（リンパ浮腫外来、ストーマ外来、遺伝診療センター）を設置している</li> <li>● 遺伝性腫瘍を扱う専門外来「がんの遺伝外来」を有する。認定遺伝カウンセラーが在籍している</li> <li>● 年齢階級別登録割合からみると、全国・栃木県に比べて平均年齢が低く、部位別割合は乳房や子宮頸部が全国・栃木県に比べて多い傾向がある</li> <li>● 大腸がん20%、肺、乳、前立腺、胃の順に10%前後の登録。2年前より婦人科を開設し卵巣子宮がんの患者も増えている。戸田公園駅から徒歩5分と都内からのアクセスがよく、がん治療を都内がん専門病院で行った後の継続通院を当院に切り替える高齢癌患者も多い。</li> <li>● 県のがん診療連携拠点病院として、免疫療法・ダヴィンチによるロボット手術などを含めた診療を、県内外からの紹介患者に実施。乳がん・消化器癌・泌尿器科癌・肺癌 などの患者数多い</li> </ul>

7

図 5. 自施設からサポートグループに期待されている役割の記載(抜粋) (2023年11月3日)

<b>自施設からサポートグループに期待されている役割の記載 (55名記載以下抜粋)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 患者サロン運営ががんサロンだけでなく、サポートグループが社会的に認知されるに伴い表出される患者や家族からのニーズに応えること。地域がん診療指定病院の要件を満たすこと</li> <li>● 遺伝性腫瘍患者およびご家族に対する心理的・社会的支援</li> <li>● 患者サロンでの活動において、サポートグループが協働して創造的に取り組む中で、相談員の立ち位置や役割等状況に応じたあり方が求められており、患者へ多様な支援の場を提供できることが期待されている</li> <li>● 患者への心理社会的サポート、当事者の生きた経験の共有（治療や仕事との両立の経験など）</li> <li>● 外来診療や短期入院で支援が不足しやすい、日常生活における細部のサポート</li> <li>● がん体験者として支援することで自身の役割の再発見や成長につながる事、体験者の語りを聞くことで一人ではない事、が伝わる事を期待している</li> <li>● 自身の思いを同じ経験をしたピアサポーターに話すことで気持ちを共有することができ、またピアサポーターも自身の社会における役割の再発見をする機会となり、両者にとって成長の機会を得る場となること</li> <li>● 施設からの期待はない。福井県から、ピアサポート養成を依頼されている。また、自身も、がんサロンを2回/月開催している</li> <li>● 自施設だけではなく地域のがん患者家族が繋がる窓口となること</li> <li>● がん患者及びその家族が心の悩みや体験談等を語り合える交流の場として、がんに関する情報を得られる場として、ピアサポーターと医療関係者が共同し、がんサロンを定期開催することで、がん患者及びその家族を支援すること</li> <li>● がんサロンのアンケートでは「知識を習得したい」という参加動機が最も多く、正しい情報を伝える役割が大きいと感じている</li> </ul>

図 6. 事前評価をしてみたの感想①(抜粋) (2023年11月3日)

<b>事前評価をしてみたの感想① (50名記載あり以下抜粋)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● がんサロン終了後にピアサポーターと医療従事者で次回のサロン開催に向けた意見や改善案を話し合えたり、サロンの参加者の意見を取り上げたりとピアサポーターと医療機関が連携して運営できていると思う</li> <li>● コロナ禍から、がんサポートグループを運営に参加することになったが、患者層の高齢化もあり、オンラインでは、参加数がふえない</li> <li>● また、5類感染になった後も、感染管理室が、院内における患者向けの対面集会を許可しない状況が続いている</li> <li>● 従来当院で行われていた患者サロンをそのまま引き継いだ形であり、自信をもった運営が出来ているとは到底思えない状況であり、他の医療機関の方の方法や考え方も含めて勉強させていただきたいとおもった</li> <li>● 当院では毎月対面でのがんサロンをフリートーク形式で開催しているため、その時その時で参加者の知りたいこと・聞きたいこととお話できる場となっております。しかし、医療者側からの何らかの情報（他職種からのがん情報やアドバイス等）を準備して提供しているわけではなく、かつテーマを決めて実施しているわけではないのが現状です。そのため、その時の参加者の人数やがん種によって有意義な情報共有の場になることもあれば、ざっくばらんなお話のみとなってしまうこともあるような状況です</li> <li>● 参加者についての設問に回答する中で、レポートで参加していた患者さんは亡くなり、コロナで開催が途切れてしまったので新たなリピーターも生まれておらず、一から始まる状況なのだと改めて感じた</li> </ul>

図 7. 事前評価をしてみたの感想②(抜粋) (2023 年 11 月 3 日)

**事前評価をしてみたの感想② (50名記載あり以下抜粋)**

- 正直組織からは要件の一部を満たすために運営を求められている状況があり、そこに対し運営を担う部門で患者のニーズ等を鑑みて目的等を後付けしているとも言える。そのため目的の成就や地域への貢献、地域ニーズへの対応、患者の広いニーズへの対応などサロンの拡大等については組織自体が積極的ではない。ピアサポーターや院内周知等の取り組みについても組織自体が乗り気ではなく、部門でも他の業務が優先されてしまうためサロンとしての課題に関わることができずにいる。今後は院内に向けてまずは算定要件ではなく、患者支援の一環であること、目的や意義を共有したうえで拡充していく必要性について話し合うことがまず必要であること、その上でピアサポーター等については部門を超えて希望者や該当者について考えたり、サポート、連携していく体制づくり等も考えないと、サロンそのものもピアサポーターも名前だけの状態が続いてしまう懸念があると感じた。また、運営部署もサロンの意義や目的、ピアサポーターやファシリテーションについて学ぶ機会を持ち、ある程度統一された知識や技術、認識を得ていく必要もあると感じた
- ピアサポーターには協力頂いているが、リフレクションのところに課題があるなど感じた。ピアサポーター自体が少ないため1人に対する負担が大きい。ピアサポーター育成研修やフォローアップ研修などの検討が必要である
- 協力してくれているピアサポーターは企画運営について不慣れでありほぼ相談支援センターの相談員が行っている
- がん相談支援センターの相談員は相談業務との兼務で運営しているため当日のサポートグループへの支援が不十分となっている

10

図 8. 事前評価をしてみたの感想③(抜粋) (2023 年 11 月 3 日)

**事前評価をしてみたの感想③ (50名記載あり以下抜粋)**

- コロナ前は患者さん中心で「がん患者コミュニティサロン」を運営していたが、感染対策のため中止していた。今年の9月から医療者を運営主体として再開したが、再開したばかりでファシリテーターとしてのかかわり方が確立できていない。ファシリテーターとしてのかかわり方や運営について学び、参加者が安心して参加できるものにしたかった
- 現在はがん相談支援センター看護師2名で企画運営しており、前年度から継続しているスタッフからは、毎年形式や頻度を変えていると聞いている。毎年形式や方法を変えることがよいのかは、評価できていない、または、共有できていない。医療者のみでの企画運営には、魅力や運営、立ち位置に限界があるのではないかと感じた
- 現在栃木県ではピアサポーターの養成を行っており、今年度修了する予定である。当院はもとより県内にも国が作成した研修プログラムを修了したピアサポーターがいないことから、事前評価アンケートにより、これから協働していく際の介入のヒントを得ることができた。また他施設での取り組み事例など、研修に参加して知りたいと思っている
- 自施設の役割として、どのようなサポートグループが求められているのか、現状把握が不足していることを自覚しました。今後は埼玉県から派遣していただくピアサポーターさんに対して、運営者として必要な体制を学んでいきたいと思えます
- ピアサポーターとの連携をどうしていくのか、(どこに依頼するか、費用等) 課題が多くある。また、サポートグループについては、リーダー的な存在を担うサバイバーがいっちゃうのか 初歩的なところからのスタートになるためこの部分においても課題は多いです

11

図 9. 事前評価をしてみたの感想④(抜粋) (2023年11月3日)

### 事前評価をしてみたの感想④ (50名記載あり以下抜粋)

- 当施設ではピアサポートメインとしたサロンを展開したいと模索しているところであり、土台自体ができていないという課題がある。どういった形でピアサポーターと連携をとり、協同していけるか。がんサロン参加者の殆どが既存のメンバーであり、また年齢やがん種にも偏りがある。新しくピアサポーターをお招きする形が受け入れられるのか、そういった点でも難しさを感じている
- 自施設のがん患者サロンは、まだまだ医療従事者主導であり、ピアサポーターの意識をもった方が一人だけだが存在している。しかし、その方も新たな治療をはじめ、今後継続した運営を任せることは重積となり得る可能性が高く、複数のピアサポーターの確保が当面の課題である。
- ピアサポーターの意識をもった人が継続・安定して参加してくれる状況になって初めて、ピアサポーター養成研修への参加を促せると思っている
- 当院のサポートグループ「癒しの会」は、参加人数が少なく、患者相互で体験を共有できる機会、自身が聞き役になる機会などほとんどないことを改めて感じた。サポートグループを、もっと支援できる体制を検討し、患者・元患者にとって有意義な会を企画・運営したいと思った
- 拠点病院にも関わらず、患者サロン開催に関しては着手が遅れている。相談対応で他の患者さんはどうしているのか、といった患者の実体験を知りたいという声を聞くことがあるが、当院主催の患者同士で交流できる場がなく、患者同士の交流ができずらい現状がある。また実際に患者サロンを企画したとしても、会の進行をどうしていくのか等経験が少なく、どのように運営するといったの思いつかない状況である。今回の研修で患者サロン開催のヒントを得ることができたらと思う

12

図 10. サポートグループ運営に関する目標レベル設定とクラスター分析結果(2023年11月3日)

### 自施設のサポートグループの目標レベル設定

- 受講確定 68人⇒(追加キャンセル4名あり) 64名
- 事前課題アンケート未提出者 4名
- 以下、事前課題アンケートの結果から57名(無記名1名含む) クラスター分析で6つに分類(5名の欠損除く)

目標レベル	Cluster	人数	特徴
I : 34名 (未提出・欠損8名含む)	CLU1	3	全体のスコアが低い ※ほぼ「できていない」
	CLU4	23	平均スコアより低い
II : 30名 (欠損1名含む)	CLU2	9	ファシリテーション、情緒的サポートはまずまず、ピアが低い
	CLU3	7	ファシリテーション、情緒的サポート低め、ピアはCLU2より高い
	CLU6	13	平均スコアより高い、ピアが高い
III : 2名	CLU5	2	全体のスコアが高い

欠損がある者5名のうち2名は、似た特徴のあるクラスターに振り分け、各サポートグループの目標レベルに設定した  
※未提出者にはリマインドメール送信、締め切り後の回答は分析対象に含まず

14

## 短期サポートグループワーキンググループ 会議報告

### 第1回 WG 会議

日時：2023年6月5日（月） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 事業内容の確認
- (1) ワーキングの方向性の検討
- (2) 今後の予定の確認

### 第2回 WG 会議

日時：2023年10月3日（火） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 11月3日「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」の準備
- (2) 11月23日「がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会」の準備
- (3) 2023年8月実施 「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」修了者 半年後追跡アンケート結果の共有

### 「ピア・サポートの実際」動画撮影

会場：市立豊中病院（大阪府豊中市柴原町4丁目14番1号）

日時：2023年9月3日（日）

### がんサポートグループ企画・運営者のための研修会(2023年度第1回)

会場(配信拠点)：ハーネル仙台（仙台市青葉区本町2-12-7）

日時： 2023年11月2日(木) 18:00～19:00（前日打合せ）

2023年11月3日(金・祝) 9:15～9:30（直前打合せ）

〃 10:00～17:00（研修）

〃 17:00～18:00（関係者反省会）

### がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会

会場(配信拠点)：AP 東京八重洲（東京都中央区京橋1-10-7）

日時： 2023年11月23日(木・祝) 11:00～11:30（直前打合せ）

〃 13:00～17:00（研修）

〃 17:00～18:00（関係者反省会）

### がんサポートグループ企画・運営者のための研修会(2023年度第2回)

会場(配信拠点)：福岡県中小企業振興センター（福岡県福岡市博多区吉塚本町9-15）

2024年2月9日(金) 18:00～19:00（前日打合せ）

2024年2月10日(土) 8:30～9:00（直前打合せ）

〃 10:00～17:00（研修）

〃 17:00～18:00（関係者反省会）